

農業の基礎を学ぶセミナーを開催しています



第1回セミナー

峡南地域普及センターでは、直売所への出荷を目指すなど農業を本格的に始めた方を対象に、平成19年度から「基礎から学ぶ農業セミナー」を開催しています。

このセミナーは、栽培技術の基礎知識の習得により、農業技術のステップアップにつなげるための研修内容となっています。

研修生は、植物の生理や病気発生仕組みなど講義内容によっては少し難しい箇所もあるようですが、出席率は高く、少しでも多くのことを学び取ろうとする意欲が感じられます。

昨年度の研修生については、栽培の実践を学ぼうという有志が、あけぼの大豆の播種や病害虫防除、エダマメ収穫について、研修生の畑で実習や意見交換を行いました。これまでに習得した基礎知識をベースに、自分の栽培状況と比較しながら熱心に学んでいました。

当普及センターでは、このような学習会の機会を通じて、一人でも多くの方々が農業との関わりが深まるよう取り組みを進めていきます。



研修生のほ場での栽培実践講習会

地域の農産物を活用した加工品開発を支援しています

富士・東部地域においては農業者による農産加工品の開発が盛んに行われ、普及センターでは各関係機関と連携して商品開発を支援しています。

JA鳴沢村加工部会「樹型の里」では伝統野菜である「鳴沢菜」を使った商品開発に取り組み、昨年度より連携企業との打ち合わせや試作を重ねてきました。その結果、「古漬炒め」を来年から販売する目処が立ち、今年度試験販売を行った「混ぜご飯の素」についてもお客様から好評であったことから、本格的に生産を開始する予定です。

また、鳴沢村青年農業者会議女性部「なるさわ野の花会」は、村の特産であるスイーツ「めぐみ恵味ゴールド」のアイス最中を開発し、10月から販売を始めました。来年の観光シーズンに向けて販売促進や販路拡大に取り組んでいます。

このような農産物加工品の開発により、農産物のPRや規格外農産物の有効活用が可能となりました。普及センターでは、産地の更なる魅力発信につながるよう、引き続き商品開発を支援していきます。



↑商品開発
打ち合わせ
(樹型の里)

→
恵味ゴールドの
アイス最中
(野の花会)



試験研究成果発表会のお知らせ

総合農業技術センター | 日時:平成26年2月24日(火) 13:00~16:00
場所:甲斐市役所双葉ふれあい文化館(甲斐市下今井230)

果樹試験場 | 日時:平成26年3月5日(木) 13:00~16:00
場所:山梨市民会館(山梨市万力1830)

●詳しくは→
山梨県総合農業技術センター TEL:(0551)28-2496 FAX:(0551)28-4909 まで
山梨県果樹試験場 TEL:(0553)22-1921 FAX:(0553)23-3814 まで



今年も成果が
たくさん!

山梨県普及センターだより

Yamanashi Agricultural Extension Service Information

■編集/発行 山梨県総合農業技術センター ■住所 甲斐市下今井1100 〒400-0105
■Tel.0551-28-2496 ■Fax0551-28-4909
■URL.http://www.pref.yamanashi.jp/sounou-gjt/
■E-mail.sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

No.27
平成26年12月20日発行



「農家のお母さんと一緒にお得なツアー」が開催されました。

山梨きら星ネット中北ブロックでは、10月4日(土)に都市と農村との交流を目的とした、農業体験・田舎郷土料理づくりツアーを開催しました。

このツアーは、農村女性ならではの目線で様々な農村資源を活かした食や農村の魅力を伝えることをコンセプトに企画されました。当日は、首都圏から13名が参加し、『長ナスのトンネルをくぐっての収穫』や『農家のお母さんと一緒に地元食材を使用した郷土食「おざら」作り』などの体験を行いました。

ツアー実施後のアンケートには、『農家から直接野菜栽培の話が聞けて良かった。』『おざら作りという貴重な体験ができて楽しかった。とりたて野菜がとてもおいしかった。』などの意見が寄せられました。

これらの意見等を参考に、今後も都市と農村との交流を図っていきます。



郷土食
「おざら」作り体験!



調理が楽しみ!秋長ナスの収穫!

峡東地域では果樹の援農者育成に取り組んでいます。



ブドウ房づくり

峡東地域の果樹産地では、高齢化や兼業化などによる労働力の不足を補うため、援農者の育成や援農体制の整備に取り組んでいます。

JAフルーツ山梨では、毎年、果樹作業の援農希望者を募集し、モモ・ブドウの基本作業の講習会開催や、農家と援農希望者のマッチングを行い、果樹農家の労力確保につなげています。

笛吹市では、笛吹市援農支援センターとJAふえふき営農支援センターが中心となり、年間を通じた援農者向けの技術講習会を開催しています。今年

は、需要が増えている品目・作業内容を新たに加えながら、幅広い作業に対応できる援農者を育成しています。

両地区とも、普及センターやJAの関係者が講師となり、実習中心の指導を実施する他、農家や援農者を対象にアンケート調査を行い、取組内容の改善に役立てています。

今後も普及センターでは、市やJA等関係機関と連携し、地域に適した援農者の確保育成や援農の有効活用に向けた取組を推進していきます。



ブドウ摘み後の出荷前品質確認

特集 農業用ハウスの雪害防止対策

1 平成26年2月の大雪被害

平成26年2月14日～15日にかけて、低気圧の接近、通過により、記録的な大雪となった県内の最大積雪深は、甲府で114cm、河口湖で143cm に達し、統計開始後最大となりました。前週に降った残雪も加わり、農業用施設の倒壊や損壊など、過去最大の被害となりました。

被害は、単棟ハウスでは、①アーチ部分の陥没、②ハウスとハウスの間に落ちた雪による側圧で、損壊したものが多くなりました。また、連棟ハウスでは、①、②に加え、③谷部分に積もった雪の重さで倒壊するものが数多く見られました。ビニールトンネルでは、スイートコーンの早出し栽培などで、④トンネル支柱が折れて、倒壊する被害が発生しました。



パイプハウス屋根の陥没



ハウスとハウスの間に落ちた雪による側圧で倒壊

2 農業用ハウスの大雪への対応

被害を回避した施設は、雪が降る前からの対策を実施しており、事前準備の重要性が再確認されました。

対策として最も重要なことは、屋根に雪が積もらないようにすることで、降雪初期からハウス内を暖房し、融雪を促す必要があります。このため、暖房機はハウス面積にふさわしいものを設置するようにしてください。

ハウスの保守管理については、次のチェックリストを参考にして、適切な対策を行ってください。また、降雪中、降雪後の作業は、危険を伴うので人命を最優先に行ってください。

大雪に対する技術対策は、「農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針」を参考にして下さい。

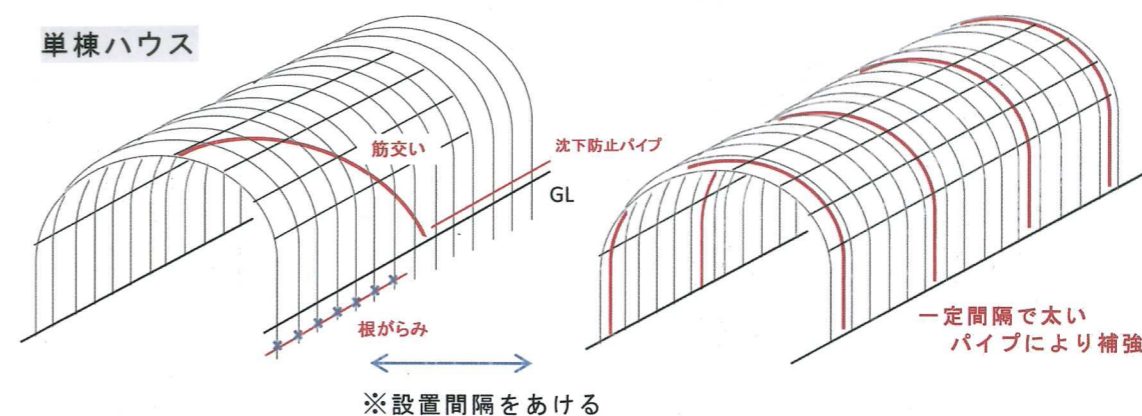
■降雪対策のチェックリスト

時期	チェック項目	チェック
冬になる前	収穫の終わったハウスの被覆は除去、収納しておく	
	防鳥網や防風網など、着雪しやすい資材は取り除く	
	ハウスの補強、基礎や接続部、腐食しやすい部分の点検・修繕を行う	
	加温機の点検を行う	
降雪予想時	常に最新の気象情報を入手する	
	加温機の燃料を確認し、早めに補給する	
	ビニールの弛みなどを点検し、必要に応じて補修する	
	除雪に備え、ハウスの周囲を片付けておく	
大雪予想時	大雪に備えて支柱などの補強資材を設置する	
	準備した支柱などでアーチや谷を補強する	
降雪直前	早めにハウスを密閉し、内部の温度を確保する	
降り始め	加温機の稼働状況を確認する	
降雪時	二重カーテンを開放し、融雪を促す	
	ハウスへの着雪状況を確認し、早めに除雪を行う	
降雪後	ハウス間に落雪した雪が多い場合は除雪を行う	
	倒壊の恐れのあるハウスには近づかない	
	除雪と損壊箇所の点検を行い、必要な修繕を行う	

(http://www.pref.yamanashi.jp/nougyo-gjt/documents/setsugaitaisaku_honnpenn.pdf)

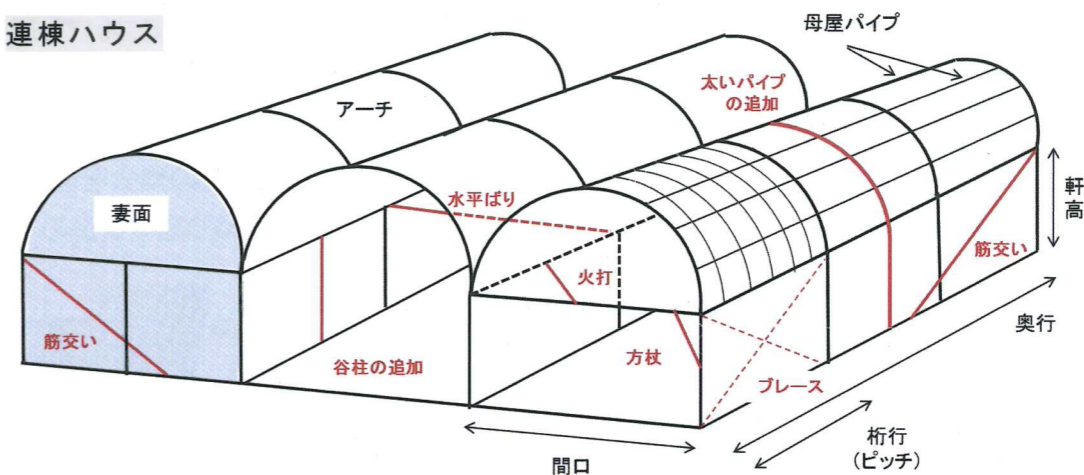
建設の際の補強方法

単棟ハウス

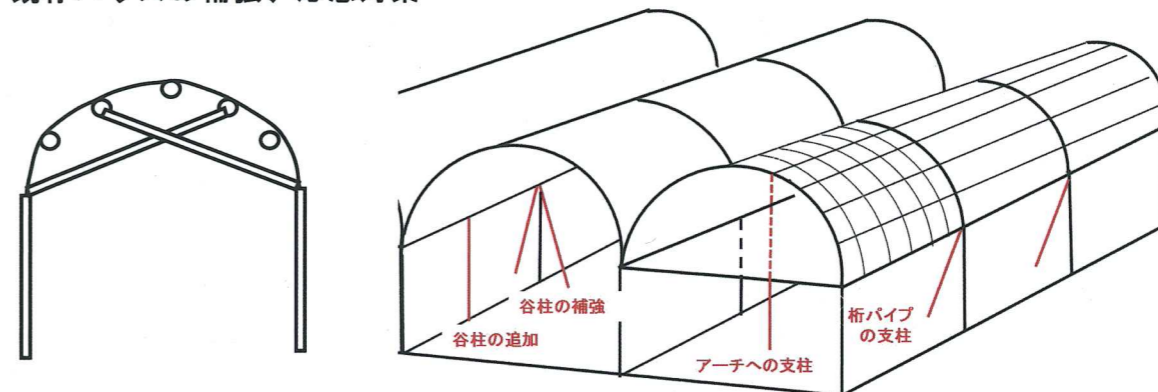


施設本体の補強とともに、ハウス間の落雪による倒壊を防ぐため、ハウスとハウスの間隔は広めにとるように留意する（左ページの右写真）。

連棟ハウス



既存ハウスの補強、応急対策



アーチの補強
3m間隔を目安にパイプ、針金などで補強

応急対策
十分な補強対策が施せなかったハウスでは、応急的に柱やアーチに支柱などを追加して、積雪に備える。

「農業用ハウスと果樹棚の雪害防止対策指針」より一部抜粋

雪害防止対策研修会を開催

総合技術普及センターでは、平成26年11月13日に園芸用ハウスの雪害防止対策の徹底に向けて、普及指導員を対象にした研修会を開催しました。開催場所は南アルプス市西南湖の建設中の野菜用ハウスで、各普及センターの普及指導員、約30名が参加しました。研修会では、実際の再建ハウスを見学しながら施工業者の(株)明友機工の担当者から、耐雪型ハウスの構造や特徴、施工のポイントなどについての説明を受けました。



耐雪型ハウスの構造や特徴について研修を受ける